

あまくさ



天草剣道連盟広報係 令和6年2月発行

新年挨拶

天草剣道連盟会長 平田光二

天草剣道連盟会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。「新型コロナウイルス感染症」の影響が漸く落ち着き始め、通常に戻りつつあります。昨年を振り返りますと全国的に猛暑日記録更新等により、夏場の稽古環境は年々厳しいものとなってきています。

天草剣道連盟の行事では、春季、秋季剣道大会や昇級・昇段審査を通常通り行うことが出来ました。又、久しぶりに開催された「天草・宇城・島原三地区対抗剣道大会」に於いて総合優勝（一般の部優勝・学生の部2位）、9月の熊本県民体育祭では1回戦突破し、2回戦で優勝した山鹿市に1勝1負3分けて本数負けと大接戦の末の惜敗。しかし、県体前の合同稽古会での盛り上がりは非常に活発で熱気を帯びたものとなり、大会の2ヵ月前から常時15名~20名程度が稽古に集まり、県体選手以外の若い会員の皆様方と素晴らしい稽古が出来たことで一体感を感じました。尚、令和6年は三地区大会・県民体育大会共に天草地域での開催予定であり、会員皆様さんのご協力とご支援を宜しくお願い致します。



近年、全国的に少子高齢化の影響で剣道人口の減少が続いています。そのような中、嬉しい出来事として当連盟の会員から少年少女との交流を図る他、女性剣士の資質向上を図ることを目的とした女性を中心とした稽古会・講習会の提案があり、「女子剣道講習会」を2月10日に実施することになりました。本講習会は、初の試みではありますが、素晴らしい提案があったことに対し心からお礼申し上げます。

結びに、令和5年5月の天草剣道連盟通常総会時に申し上げました5年10年を見据えた剣道人口の拡大に向け。

- ① 「仲良く、楽しく学ぶ」の指導の推奨
- ② 不適切な指導の根絶
- ③ 積極的な中央伝達講習会への参加

以上3点を目指して行きたいと思っております。会員の皆様が今年1年すばらしい年となりますように、お祈り申し上げ新年の挨拶と致します。

□ 令和5年度天草秋季剣道大会

令和5年10月29日(日)有明体育館を会場に天草秋季剣道大会が開催され、熱戦が繰り広げられました。結果は以下の通りです。おめでとうございます。

学年	優勝	優秀選手賞	2位	3位	3位
小学4年以下	牛深少年剣道クラブA	田苗琉聖	楠浦剣友会A	松正館A	上天草剣道クラブ
小学5・6年	栖本少年剣道クラブA	福島颯希	牛深少年剣道クラブ	松正館	上天草剣道クラブ
中学生	有明剣道クラブA	山田海伸	栖本中B	姫戸中	本渡中A



(牛深少年剣道クラブA)



(栖本少年剣道クラブA)



(有明剣道クラブA)

◇ (祝) 七段昇段おめでとうございます！

本渡支部 宗像俊治会員の昇段コメント

令和5年2月4日、福岡で行われました剣道七段審査において合格することができました。これもひとえに天草市役所剣道部の皆さん、天草消防署剣道部の皆さん、天草剣道連盟の先生方々に一緒に稽古をつけていただいたご指導のお陰だと心より感謝申し上げます。

第1回目令和2年8月29日からの挑戦で、10回、3年半の月日を掛けての合格でした。一番心配をかけていただいた同級生の故檜木昌彦先生からは徹底した基本打ちの考え方、合気を意識した出ばな技の習得を令和2年の当初から3年間、天武館の練習後に時間を設けてもらい元立ちをしていただき感謝しかありませんでした。令和4年11月9回目の審査も不合格だったことを檜木先生に報告し、「内容はそこまで悪くなかったから、また、練習するぞ。」が最後の同級生としての声掛けでした。

10回目の当日は、初めての1組目でありましたが、それほどの緊張は無く逆に覚悟が決まった1組目でした。過去9回では、残り数秒間を積極的に気圧を掛けずに審査時間が過ぎるのを待っていましたが、今回は不思議な感じでもう一步でなければいけないと誰かに押された感じで打突をしたら合格できたかなと思っています。

今後は、段位に恥じぬように精進してまいりますので、変わらぬご指導よろしく申し上げます。誠にありがとうございました。



◇ (祝) 七段昇段おめでとうございます！

有明支部 高濱祐治会員の昇段コメント

令和5年8月26日、福岡市総合体育館で行われました審査会で七段に合格することができました。これもひとえにこれまでご指導頂いた先生方や今もなお剣道にゆかりのある方々のご支援のおかげだと思っております。心より感謝申し上げます。

私は小学校1年生から下津浦少年剣道クラブで現天草剣道連盟会長である平田光二先生に指導して頂きました。ここまで剣道が続けられたこと、そして今回七段に合格できたことは平田先生との出会いがあったからこそだと考えております。



今思えば、七段までの道のりは思った以上に困難で、自分に何が足りないのか全くわからず自問自答しながら稽古をしていました。そんな矢先、一昨年11月に剣道の大先輩で職場の上司でもある、榎木昌彦さんが急逝されました。1年以上経った今でもその悲しみを消し去ることができません。榎木さんとは剣道を通しての思い入れがとても強く今でもその姿が脳裏に焼き付いています。生前に七段をとる約束をし、何度も稽古に付き合ってもらいました。七段とることがまずは榎木さんへの恩返しと思い稽古に励み、今回4回目で合格することができました。

3回の不合格が自分の剣道を振り返るいい機会であったと思っています。一期一会という言葉がありますが、一生に一度の出会い、それは今の私にとっては剣道であり、平田先生、平川先生、榎木先生をはじめ剣道関係者の皆様であることを実感しています。そして天草の剣道発展ために微力ながら精一杯尽力させて頂きます。今後ともよろしく願いいたします。

最後に剣道を健康に続けられる丈夫な体に生み育ててくれた両親、好き勝手に剣道に行かせてくれる妻に改めて感謝したいと思います。

◇ 追悼

昨年十月、生涯剣道の道を率先垂範された大先達の二先生が亡くなられた。大矢野の森梅太郎先生九十九歳。その十三日後に三角の西山弘先生九十八歳。過ぎし日のお姿を回顧し心よりご冥福をお祈りします。

森先生は熊本武道館の朝鍛会で錬られた稽古人で、「さあ打ってきなさい」と柔らかく温かく迎えるように立ち合われた。勇んで打ち込むと一瞬剣先を胸に付け、すぐ緩め「今じゃない。その打ちじゃない。」と無言で諭された。攻め直し、これはいかが、と行くと意に介せず返し胴。打ちあぐねているとポンと小手。止心の一瞬をまさかの面をストンと打たれた。自在の剣だった。また森先生は竹刀造りの名人で作っては後進に与え、私も「無心」銘をいただき、もったいなくて仕組まらずに竹刀棚に捧げている。ついに形見になってしまった。

西山先生は天草各地の稽古会に足を運ばれあまねく我々の打ち込みを受けて下さった。特に松島アロマの稽古会は、上天草の剣友諸氏が春夏秋冬送迎を努め、毎回参加者全員に稽古をつけ、何と九十代半ばまで道場に立たれた。剣技、体力、気力とも驚嘆すべきスーパーマン範士であられた。私個人はほとんど懸かり稽古に等しい内容だったが毎回精根尽きるまで打ち込み、稽古帳によると二十余年でおよそ七百回の稽古をいただいた。先生の稽古の様子は述べるまでもなく各々記憶され

ていよう。すなわち対等に攻め合い打ち合うという通常一般の稽古などではなく、あらゆる攻めも技もむなしく最後は当然打ち込み懸かり稽古で終わるというものであった。そもそもの修行が違うのである。

ところで、両先生と立ち合うと「気の壁」とも言うべき、先生から放たれる、踏み込んで破ろうとしてもかなわない厚い壁を感じた。両先生の長年の御修行でつちかわれた地と位が懸かる側の剣と気を寄せ付けなかったのだろう。我々が何段に昇段しても子や孫を相手にしているように悠々と楽しまれていたお姿もむべなるかなである。

我々に無言で示された生涯剣道の教えを改めて胸にきざみ、一步でも近づけるよう精進したい。森先生、西山先生、有難うございました。安らかにお休み下さい。

有明支部 益田克法